

東北中学校野球大会 特別規定

【選手登録】

- 1 チームの編成は、監督（引率者）1名、選手9名以上18名以内（スコアラーを含む）とする。女子の参加も認める。この他に教職員または部活動指導員を2名追加することができる。ただし、外部コーチが入る場合には1名とし、計21名以内とする。ベンチに入れるのは登録されたもののみとする。
- 2 監督は当該校の校長・教員・部活動指導員、コーチは当該校の教職員・部活動指導員もしくは外部コーチとする。外部コーチは1名までとし、当該校長が認めた者でその証明書を提出する。

【試合規定】

- 3 試合は、2022年公認野球規則並びに2022年（公財）全日本野球連盟競技者必携及び東北中学校野球大会特別規定による。
- 4 正式試合は、通常7イニングから成る。決勝戦を除き、5回（4回1／2）以降、7点差以上の差がある時はコールドゲームを適用する。
- 5 暗黒・降雨等で7回までイニングが進まなくても、5回（4回1／2）を終了すればゲームは成立する。暗黒・降雨等で5回以前に中止になった場合、また5回を過ぎ同点で試合が中止の場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。決勝戦も同様とする。
- 6 全試合7回までに勝敗が決着しない場合は、8回より次のようなタイブレーク方式を行う。
＜タイブレーク方式＞
継続打順で前回の最終打者を一塁走者とし、二塁走者は順次前の打者とする。すなわち、無死1・2塁の状態にして一イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で勝敗が決するまでこれを繰り返す。なお通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。
- 7 天候不順等（降雨・雷・濃霧）による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。降雨等による順延などの場合、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。
- 8 用具装具については、試合前に審判員または大会役員の確認に応じなければならない。
- 9 スパイクは高野連規定（黒または白一色）に準ずる。チーム内で黒・白スパイクのどちらかに統一する。ただし、合同チームの場合は、同一中学校の統一で可とする。
- 10 使用するボールは、（公財）日本中体連軟式野球競技部が認めた試合球M号とする。
- 11 選手はサングラスを使用しない。ただし、選手健康上の理由及び球場の条件によって大会本部で協議し、認める場合もある。
- 12 選手の肩・肘の障害予防として、一人の投手が1日に投球できる数は下記の取り扱いとする。

- ① 1日の投球数は100球以内
- ② 1大会350球以内
- ③ 試合中規定投球数に達した場合、その打者の打撃中に攻守交代となるか、打撃が完了するまで投球できる。
- ④ ボークにもかかわらず投球したものは、投球数に数える。
- ⑤ ダブルゲームやタイブレークの場合、1日の規定投球数内で投球できる。
- ⑥ けん制球や送球とみなされるものは投球数としない。
- ⑦ 投球数の管理は、大会本部が行う。

【試合前】

- 13 監督に引率されたチームは開始予定時刻 1 時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが会場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合は棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 14 打順表の提出は、その日の第 1 試合は試合開始予定時刻の 40 分前まで、第 2 試合以降は試合開始予定時刻の 1 時間前とする。ただし、第 1 試合の前に開始式がある場合や、勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、その都度本部で決定し連絡する。監督と主将は打順表を 1 部持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の 4 回終了時に球審立ち会いのもと攻守を決定する。
- 15 シートノックについては以下の通りとする。
 - (1) 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
 - (2) 後攻側から始め、時間は 7 分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - (3) 試合前の練習およびノックは登録選手に加えて補助員 3 名以内で行うことができる。補助員は、当該校の部員とし、ユニフォームまたは練習着、ヘルメットを着用すること。
 - (4) 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
 - (5) マウンドは使用しない。
- 16 ベンチの入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。

【試合中】

- 17 選手交代の申し出は監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ない。
- 18 メガホンの使用は、監督のみとする。
- 19 選手以外は、コーチボックスに入ることはできない。
- 20 投手（救援投手を含む）の準備投球は、初回に限り 7 球以内（1 分を限度）が許される。次回からは 3 球以内とする。またキャッチャーの装具準備時において 2 球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
- 21 監督が投手のところに行く回数について「投手のところに行く」とは監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合や投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同様とする。
- 22 ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も「21」と同じ行為であれば回数に数える。
- 23 競技者必携 13P に記載されている「投手の 12 秒及び 20 秒ルールの取り扱い基準」については、基準に基づくボールと宣告せず、警告のみとする。ただ、スピードアップのための取り扱いなので、各チームで遵守できるように、日頃より意識してプレーする。

【その他】

- 24 テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。
- 25 同一日に続けて試合を行う場合、試合終了後 50 分後に次の試合を開始する。その際の打順表の提出は試合開始予定時刻の 20 分前までとする。なお、ベンチの入れ替えは行わないものとする。